

職人の町の名匠 たくみ

第3回目 (左官業)

東町地区 伊藤 富夫 さん

「職人の町・大石田」は永年築きあげたブランド。このページではその職人さんを紹介していきます。



今年の干支も鏝絵で

どうしてこの職業につかれたのですか？

自分は次男で、本家出身で長野にいる左官職人に弟子入りしたことがきっかけです。

この仕事をはじめて一番思い出に残る作品は？

30数年前に携わった弘前城近く、現在の「青森銀行記念館」の建物です。外壁が総漆喰で、岩木山をイメージした色合いで仕上げたことです。

これからの職人にアドバイスすることは？

左官業だとすれば、平らにならす事は簡単に取得出

- 昭和11年2月24日生まれ 81歳
- 家族構成 本人、妻、長男、長女の4人家族 (☎35-2867)
- 数々の見事な鏝絵作品も、町内外至る所に展示されています。鏝絵で作る干支の色紙も好評です。



見事な総漆喰の青森銀行記念館 (重要文化財)

来るが、苦勞しながらその先の技術を身に付けてほしいです。大石田町への要望はありますか？

人口減少は避けられない課題だが、職人が技を継承出来るような環境の町であってほしい。

議員からひと言
大臣表彰や県知事表彰など、数えきれないほど受賞してきた匠が危惧しているのは、後継者が育ちづらい現状との事。
(記 岡崎)



(作品) 役場の2階から見られます



(作品) 中学校玄関ホールには斎藤茂吉

編集後記

「平成」の最後を飾る新しい年が明けた。この30年を振り返れば、良い事も悪い事も、皆それぞれ数え切れないほどたくさん出来事があったと思う。個人的に強く印象に残っている出来事は、『東日本大震災』である。日本の有史以来、類を見ない未曾有の大災害となった。しかし、わが町に限ってみれば、この30年の間は、大きな災害は無かったと記憶している。「大きな台風が度々来る訳でもなく、土石流が襲う訳でも、津波がやって来る訳でもない。雪ぐらいは我慢するか。」世間話をするときよく耳にした言葉である。このまま全ての町民が、残り4か月の平成の時代を大過なく駆け抜けることができるよう、心から願うばかりだ。
(記 岡崎)

広報常任委員会

- 委員長 村形 昌一
- 副委員長 岡崎 英和
- 委員 小玉 勇
- 委員 遠藤 宏
- 委員 芳賀 清